

令和元年度 第2回 まつやま人口減少対策推進会議

運営幹事会 議事概要

(1) 開催日時・会場

開催日時：令和元年10月17日（木） 15:00～17:00

場 所：センタービル4階 第4会議室

(2) 出席者

「令和元年度 第2回 まつやま人口減少対策推進会議 運営幹事会 出席者名簿」に記載のとおり

(3) 議事

1. 専門部会の事業の活動報告について
2. 来年度以降の専門部会での事業について
3. 地方創生関係交付金事業の効果検証について
4. その他

(4) 議事録

1. 専門部会の事業の活動報告について

【希望出生率実現プロジェクト】

- ・共働き世帯が多くなってきており、共働き世帯の方が第2子以上を出産しているデータがあるが、原因は不明。
- ・結婚や出産により退職した女性が復職する際は、ほとんどパートである。本当にその仕事で良いのか、正規職員で働きたいのかという実態の調査が必要ではないかと考えている。
- ・女性のキャリア断絶を防ぐために、独身者が結婚後の家事育児に向き合う意識を醸成できるような取組を地道にでも行っていければ。

【企業の生産性アッププロジェクト】

- ・会計やキャッシュレスの支援について、専門家を入れて進めている。
- ・事業所がキャッシュレス・消費者還元事業への対応に苦勞されているため、事業所とともに進めていきたいと考えている。
- ・和歌山県南紀白浜と岐阜県関市において、松山市や関係者とともに IT 企業誘致の先進地視察を行った。民間からの視点で報告書をまとめる予定。

【まつやま暮らし実現プロジェクト】

- ・高校生、大学生、若手の社会人を集め、働くと暮らすという視点で、松山と都会のことを評価するワークショップを行った。現在まとめている最中だが、出来上がれば報告する。
- ・全体的に松山で働くことの価値を見出している若者が多かった。
- ・都会は、仕事に追われそうだが、楽しむ機会が多そうというイメージがある模様。

2. 来年度以降の専門部会での事業について

- ・労働力の補完として、外国人労働者が増えることが予想されるなか、外国人労働者をどのように受け入れていくか、受け入れ環境や地域コミュニティについて、基礎自治体のレベルで議論を進めることができるか。
- ・学生が、両立支援制度を利用して働いている人の職場での姿を見た後、家庭での様子も見られるような体験を2日間行うプログラムを今年度行っている。学生が松山で実際に暮らしている方々を見る、見て感じるようなライフキャリア教育みたいな事業ができれば。
- ・先日松山で開催された G20 労働雇用大臣会合でも、男性の家事育児の必要性について閣僚宣言がなされた。イクボスのような上司部下の関係ではなく、経験者が未経験の人に教えるというような、男性に対する啓発や事業を行っていききたい。
- ・男女共同参画について、学生への学習資料を作成しているが、今後は、ターゲットエイジを以前より多様化して、できるところから取り組んで行きたい。また、シニア世代が自分の暮らしが豊かになる男女共同参画を考えてもらう機会を創出したい。

⇒出てきた意見を事務局で整理し、第3回目の運営幹事会で協議することとする。

3. 地方創生関係交付金事業の効果検証について

地方創生推進交付金の昨年度の取組状況及び KPI（重要業績評価指標）について説明後、各委員から意見。必要に応じ、事務局から回答。

(1) 瀬戸内・松山観光ビジネス戦略事業

- ・外国人のインバウンドを増加させる事業は、どのようなものがあるか。
- ⇒ホームページの多言語やクルーズ船の誘致、台湾便の就航、オリンピックの関係もあり合宿誘致も行っている。今後は、デジタルマーケティングの手法を活用するなど戦略的な推進を図る予定である。

- (2) いい暮らし。まつやま ワンストップ移住支援事業
- ・松山市地方創生懇話会で、今年の春の学生の転出が多くなったと聞いた。
- ⇒特に平成30年は転出超過が大きく、中四国の県庁所在地全て転出超過となった。
- ・地元企業の情報が伝わっていないところもあるので、良さを伝えていくべき。
- (3) 多様な働き方と仕事づくり推進事業
- ・創業よりも事業承継が国の最優先課題になっているので、事業承継については、連携をもっと強化して取り組んでほしいという希望がある。
 - ・事業を引き継いだ人が新しい事業を始めたときの補助金があるが、あまり使われていない。それよりも後継者がいないなどの一次相談的な支援やニーズの掘り起こしや啓発などに力を入れ、行政も事業承継に取り組むというような旗振り役をお願いしたい。
- (4) 魅力ある「まつやま農業」創出事業
- ・農業のIT化という視点を取り入れるのはどうか。
 - ・IT化は、規模が大きければ大きいほどコストが下がる。地権者が細分化されている松山の規模ではコストが合わない場合もある。
- (5) 「坂の上の雲」のまち松山
- ・個性がはっきりしていて、そこに共感する人やコアなファンが積極的に継続的に関わっているイメージがあり、そこが三津浜の1つの在り方ではないかと思う。
 - ・商店街で新しい形で若い人を入れて成功しようとしている良いモデル。全国にも誇れる事例になりえるので、もっとPRをしてもよいと思う。
- (6) コンパクトシティ松山
- ・アーバンデザインセンターが移転したことでどういうことが変わったか。
- ⇒花園町を整備する前は、商店街が衰退していた感じがあったが、アーバンデザインセンターが花園町の商店街に深く入り込み、まちづくりへのアドバイスや人材育成などを行うことで、マルシェなどのイベントが開催されるといった、花園町にとってとてもいい効果が生まれている。
- ・視察に来た人も、現在のセンターの方が評判がいい。
- (7) 道後温泉の賑わい創出
- ・どの観光地でもあるような店では、道後らしさが薄れる。商店街から裏路地に入れば、レトロな雰囲気が残っているということも魅力として発信できればよい。
 - ・松山ブンカ・ラボなどが、道後温泉本館だけではなく、周辺を含めていろいろなイベントを展開するような関わりができると思う。

(8) 稼ぐ力を創出するスポーツと文化による地域活性化事業（愛媛県提出事業）

- ・オリンピックの事前合宿で、台湾の選手団の規模や合宿時期は。

⇒時期は春から。選手の数の確定は、参加基準の関係で、今はできない。

- ・ただ練習して帰るだけではなく、選手と地域が交流する仕掛けはあるか。

⇒小中学校を訪問し、アスリートと児童・学生が交流する機会を設けている。

(9) 来て観て住んで！えひめの交流・定住推進事業

- ・台湾との文化交流や観光振興だけではなく、ビジネスの交流人口を増やすような経済交流を政策にも投資してほしい。

4. その他について

事務局から説明

- ・今年度第3回目の運営幹事会は、令和2年2月以降に開催予定。よろしくお願ひしたい。